

# ワラビ幼葉の大きさと採取時期が $^{137}\text{Cs}$ 濃度に及ぼす影響

○小林勇介

## 1. はじめに

出荷、自家消費またはモニタリング検査に供するワラビを現地で採取する際に、放射性セシウム（以下、 $^{137}\text{Cs}$ ）濃度の高低に関わる目安があれば採取にあたっての参考となる。

山菜として利用されるワラビの幼葉（以下、ワラビ）には、同時期であっても長さにはばらつきがある。また、山菜として採取される時期には1～2ヶ月程度の幅がある。ワラビの大きさ、あるいは採取時期と  $^{137}\text{Cs}$  濃度の関係性が把握できれば、ワラビ採取時の目安になりうる。本研究は、ワラビの大きさと採取時期が  $^{137}\text{Cs}$  濃度に及ぼす影響を調査した。

## 2. 調査方法

福島県内の草地（空間線量率  $1.07\mu\text{Sv/h}$ 、原発事故以前までワラビ園として利用、写真1）に  $2\text{m}\times 2\text{m}$  の方形区を5か所設け、2025年5月28日にワラビを採取した。試料は葉身の長さ別（写真2）に区分した。各検体の重量と  $^{137}\text{Cs}$  濃度を測定し、両者の関係を解析した。また、同草地に  $3\text{m}\times 3\text{m}$  の方形区を6ヶ所設け、2025年5月12日～6月4日におよそ1週間毎に5回、ワラビ（葉身  $20\sim 40\text{cm}$ ）を採取し、（1）と同様に重量と  $^{137}\text{Cs}$  濃度を測定し、 $^{137}\text{Cs}$  濃度と採取日との関係を解析した。

## 3. 結果および考察

葉身の長さ別に採取したワラビの  $^{137}\text{Cs}$  濃度は、葉身が短い区分ほど高く、 $^{137}\text{Cs}$  濃度と重量の間に有意な負の関係性が認められた。このことから、大きいワラビ（葉身が長く、重量が大きい）ほど、 $^{137}\text{Cs}$  濃度が低くなることが考えられた。

また、時期を変えて採取したワラビの  $^{137}\text{Cs}$  濃度は、採取時期が早いほど高く、 $^{137}\text{Cs}$  濃度と採取日の間に有意な負の関係性が認められた。このことから、採取時期が遅いワラビほど、 $^{137}\text{Cs}$  濃度が低くなることが考えられた。

以上から、同一栽培地においては、ワラビの大きさと採取時期が、出荷等に供するワラビ採取時の目安として参考となる可能性が示唆された。



写真1：試験地の様子



写真2：長さ区分毎のワラビ